

藤河内溪谷周辺地域の自然林

ブナ林

1,000m以上の山岳地はブナやミズナラで代表される落葉広葉樹の森になります。林内もシロモジ、タンナサワフタギ、オオカメノキなど落葉樹がほとんどです。林床は普通スズダケが密生しますが、枯れたところもあります。



ツガ林

標高1,000m付近の山腹斜面には常緑針葉樹のツガが優占種となる林があります。林内にはハイノキ、アセビ、ソヨゴなどが生育しています。



アカガシ林

溪谷沿いの丘陵地には一度伐採され再生したアカガシ林がみられます。林内には、ハイノキ、ヒサカキなどの常緑広葉樹が生育しています。



ウラジロガシ林

藤河内溪谷周辺の溪流斜面に見られ、ウラジロガシのほかヤブツバキ、サカキなど常緑広葉樹が多く生育し、うっそうとした林になっています。

藤河内溪谷周辺や1,000mを越える新百姓山、夏木山、木山内岳などが連なる宮崎県境の山岳地域は、県内でも豊かな自然が残された地域です。そこでは清冽な流水と奇岩の織りなす溪谷美とが見事なまでに環境と調和し、爽やかで安らぎをよぶ動植物の営みを目のあたりにすることができます。森に目を向けると標高と共に移り変わるウラジロガシ林、ツガ林、ブナ林、さらには溪谷のシオジ林、岩場のヒメコマツ林など様々な群落と出会うことができる素晴らしいところです。



シオジ林

やや標高の高い山腹の溪谷斜面にはシオジの林が残っています。林内にはイタヤカエデ、チドリノキ、ミヤマクマワラビ、ジュウモンジシダなどが生育して深山幽谷の景観を保っています。県内でもこの群落が見られるところは限られていて貴重な群落です。



ヒメコマツ林

山地の岩場ではヒメコマツ、ツクシシヤクナゲ、ヒカゲツツジなどが乾燥や強風などの厳しい環境に耐えて特徴的な群落をつくっています。



アカマツ林

表土の浅い急傾斜地では、林床にオンツツジ、ヤマツツジなどのツツジ科植物が生育するアカマツ林がみられます。